

製品名: チューブリン α (アセチル Lys112) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06263**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	TUBA1A
別名	TUBA1A; TUBA3; Tubulin alpha-1A chain; Alpha-tubulin 3; Tubulin B-alpha-1; Tubulin alpha-3 chain; TUBA1B; Tubulin alpha-1B chain; Alpha-tubulin ubiquitousTubulin K-alpha-1; Tubulin alpha-ubiquitous chain; TUBA1C; TUBA6; Tubulin alpha-1C chain; Alpha-tubulin 6; Tubulin alpha-6 chain
遺伝子 ID	7846/10376/84790
SwissProt ID	Q71U36/P68363/Q9BQE3
免疫原	K112 のアセチル化部位の周囲にあるヒトチューブリン α 由来の合成アセチルペプチド。

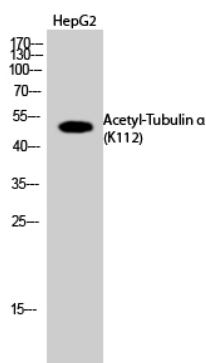
背景

真核生物の細胞骨格を構成する微小管は、必須かつ多様な機能を果たし、 α チューブリンと β チューブリンのヘテロ二量体から構成されています。これらの微小管構成要素をコードする遺伝子は、6つの異なるファミリーからなるチューブリンスーパーファミリーに属しています。 α 、 β 、 γ チューブリンファミリーの遺伝子は、すべての真核生物に存在します。 α および β チューブリンは微小管の主要構成要素であり、 γ チューブリンは微小管の核形成において重要な役割を果たします。 α および β チューブリン遺伝子は複数存在し、種間で高度に保存されています。この遺伝子は α チューブリンをコードしており、マウスおよびラットのTuba1遺伝子と非常に類似しています。ノーザンブロット法を用いた解析により、この遺伝子発現は主に形態的に分化した神経細胞で見られることが示されています。この遺伝子は、染色体12番q上のクラスターに含まれる3つの α -チューブリン遺伝子の1つです。疾患：TUBA1A遺伝子の欠陥は、滑脳症3型(LIS3) [MIM:611603]の原因です。LIS3は、脳表面の回旋構造が欠如(無脳回)または減少(厚脳回)しているため、脳表面が滑らかになることが特徴です。しばしば精神運動遅滞や発作を伴います。LIS3の特徴には、無脳回または厚脳回または層状異所性、重度の精神遅滞、運動遅延、発作の有無の程度、脳梁、海馬、小脳虫部、脳幹の異常などがあります。機能：チューブリンは微小管の主成分です。これは2モルのGTPに結合します。1つはベータ鎖の交換可能な部位に、もう1つはアルファ鎖の交換不可能な部位にあります。PTM: チロシン化/脱チロシン化サイクル、つまりチューブリンチロシンカルボキシペプチダーゼ(TTCP)とチューブリンチロシンリガーゼ(TTL)の酵素によってC末端チロシン残基が周期的に除去され、再度付加されます。類似性: チューブリンファミリーに属します。サブユニット: アルファ鎖とベータ鎖の二量体です。組織特異性: 胎児の脳で高レベルで発現します。、

研究分野

ギャップジャンクション;病原性大腸菌感染症;

画像データ



アセチルチューブリン α (K112) ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。